

学校番号	20	学校名	静岡県立浜北特別支援学校	校長名	八幡 正信
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 安全・安心	人権を尊重し合い、笑顔あふれる学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の心を捉えた声掛け、励まし、称賛、対話を心掛けている教員 100% 相手を意識して自ら笑顔で挨拶や感謝の言葉を伝える児童生徒、教員 100% 	<p>児童生徒の表情や態度等に応じた言葉かけをすることができた。 100%</p> <p>相手を意識して笑顔で挨拶をすることができた。 100%</p>	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の気持ちを尊重したり、寄り添ったりして、対話や適切な支援を繰り返すことで、児童が安心感を持って活動に取り組めるようになった。 ○帰りの会で一日の頑張りを称揚することで、生徒同士で認め合ったり声を掛け合ったりする姿が見られ、意欲的に取り組む姿を引き出すことができた ○教師が率先して挨拶をする姿勢を見せることで、生徒も自分から相手に聞こえる声で挨拶できることが増えた。 ○あいさつ運動やあいさつ名人の表彰は、児童の意欲的に挨拶をする姿を引き出すために効果的であった。 ○生徒の意見を否定せず、気持ちに寄り添いながら対話を重ねることで、悩みや不安を自分から打ち明けられる関係性が築けた。 ○児童同士の関わり方を複数の目で見守ったり、小さな変化を見落とさないように学級、学年間で連携したりすることでいじめを防ぐことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●他学年や他グループの生徒と関わる機会を持つことが少なく、全体を見渡す意識を持って進めることが難しかった。 ●教師自身が生徒を呼び捨てで呼んだり、障害特性への配慮に欠ける指導を行ったりしてしまうなど、人権に配慮した行動ができていないことがあった。 ●スマホトラブルや男女交際など、学校外で起こる事案への指導セオリーを共有する研修の実施が必要であった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・重大ないじめ0 ・「学校は楽しい」「学校に行きたい」と答える児童生徒 100% 	<p>特別の教科道德の時間及び、教育活動全般において、児童生徒に分かりやすく自他を大切に育てる指導を行うことができた。 98.9%</p> <p>望ましい人間関係ができるように指導・支援し、いじめにつながる行動を見逃さなかった。 100%</p> <p>特別の教科道德の時間等に、児童生徒が自らの頑張りを振り返ったり、お互いに認め合ったりする場を設定することができた。 99%</p>		
ア 安全・安心	命を守る、実地的な安全体制の整備と実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとって分かりやすく、活動しやすい学習の場となるように校内、教室内の整理整頓をしている教員 100% ・確実な安全点検と迅速な対応をしている教職員 100% 	<p>業務に見通しを持ち、計画的に掲示物や教材、物品等を配置したり、整理整頓したりすることができた。 94.5%</p> <p>毎月の安全点検で道具や環境の不具合に気づいて、すぐに対応することができた。 98.8%</p>	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ハリーコール訓練や避難訓練等を通して、緊急時の具体的な動きをイメージ・共有することができた。 ○スクールバスの介助員と情報共有をしたことで、スクールバス内でのトラブルの予防をすることができた。また、連絡がなく登校していない生徒や、下校方法の記載のない生徒の家庭への早い段階での連絡対応をすることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・発災時、緊急時の自分の動きを具体的に想定できる教職員 100% 	<p>緊急搜索訓練などで自分の役割を理解して行動できた。 97%</p> <p>マニュアルの確認や班別防災研修で、学校の対応及び各自の役割について理解することができた。 98.7%</p> <p>掲示板でヒヤリハットについて全教員に周知し、校内での安全指導を行い、重大な事故を防いだ。 97.4%</p>		

		<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを含むヒヤリハットの活用による重大な事故0 	<p>医療的ケアや保険・給食でのヒヤリハット報告や事後の振り返り、掲示板等での啓発を生かして、校内での事故防止を意識し、重大事故を防いだ。 97.8%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学年会の中でマニュアルを読み合わせ、役割を確認する時間を設けたことで、自分の動きが明確になった。 ○ヒヤリハットがあった際には、翌日の朝の打合せや掲示板を活用して全体に周知することで、自分ごととして日頃の指導を見直すきっかけとすることができた。 ○避難訓練前の学年での話し合いでは、各々の役割について確認し合うことができた。また、避難訓練の設定をいつもと違う環境での場面にしたことで、具体的な行動を考えることができた。事後の振り返りを確実に言い、有事に備えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自転車の交通ルール厳格化を見据え、新年度早々の学習会実施や1・2年生への事前学習を強化する必要がある。 ●時間が経ち活動が進むと教室の物が増えて安全への配慮が欠けたり、教室内の破損に気付けなかったりしたことがあった。 ●定期的に危機管理マニュアルを確認する習慣をつけたい。 ●物の置き場所など教室環境を整えようと心掛けているが、収納場所が少ないため難しい面がある。
イ 授業力・専門性	児童生徒が夢中になって「できる」「分かる」喜びを実感できる授業づくりの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒 100% ・通学途上の事故0 	<p>想定される危険や安全な行動について指導し、通学途上の事故0につながった。100% 手洗い、換気などの感染症対策の指導を行い、児童生徒が自分から感染症対策を行ったり受け入れたりする行為に結び付いた。 100%</p> <p>命の大切さや健康に関する保健学習や保健指導を多なうことができた。 96.7%</p> <p>登下校時の事故0 100%</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立活動目標分析シートを基に複数の視点で児童生徒の実態をとらえることで、根拠を持って目標設定をすることができた。 ○グループ研修で継続して児童生徒の姿から始まる授業づくりについて話し合うことで、児童生徒中心の授業づくりが定着してきた。 ○教科担当者会で教育課程や年間指導計画の検討をしたことで、系統性のある授業づくりができた。 ○学部会内で行なうミニ学習会を参考にしたり専門教科の教員からアドバイスをもらったりすることで、児童生徒の実態に合った授業づくりができた。 ○指標を意識することで教材や題材の見直し・改善が進み、生徒が主体的に操作したり関わり合ったりする姿が引き出された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年度初めに教育課程の押さえやいっ・なに表の内容を全員で確認する場を設け、効果的な活用につなげていきたい。 ●生徒の実態は日々変化するため、分析シートを一度作って終わりにせず、適宜見直して最新の状態を反映させる必要がある。 ●現状では学期によって学習負担にばらつきが生じているため、単元ごとの時間配分を精査し、年間を通じたバランスの改善が求められる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の調和を図り、学部間/学年間の系統性を実現する教育課程が整理できたと考える教員 100% 	<p>年間指導計画の実践において、学習指導要領に目を通したり教科書・指導書を参考にしたりして教育活動に活かした。 95.9%</p> <p>学習指導要領や教育課程の押さえ、各学部の教育課程片影のためのシラバス等を活用することで、年間指導計画を作成し、授業等の実施、みなおし、修正等ができた。 93.6%</p> <p>保健体育で作成したシラバスを基に、児童生徒の実態に合わせた年間計画の作成や授業内容を検討した。 95.1%</p>	<p>A</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動（「時間の指導」「各教科等を合わせた指導」）の充実を図ることができたと考える教員 100% 	<p>指導目標の設定において、自立活動目標分析シートを活用し、実態把握、目標設定、項目選定、指導内容の設定等ができた。 98.4%</p> <p>研修窓口の授業において、具体的な児童生徒の姿について対話しながら、日々の授業づくりや授業改善、単元計画の改善につなげることができた。 96.7%</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルを生かした授業を実践できた教員 100% 	<p>自立活動目標分析シートや自立活動研修の場面などで教員同士の学び合いを通し、実態把握や指導すべき課題、指導目標を導き出し、指導に生かすことができた。 97.7%</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究授業で出た意見やコンサルテーションで得た情報を共有し、授業改善に活かすことができた。 ○年次別研修で得た情報を学部教員で共有することで、他学部や他校の取り組みや成果からアイデアをもらうことができた。 ○学年でメンターを決めて、情報教育課とメンターが連携してICTの学習会を実施することができた。 ○教師がICTを活用して授業の導入や視覚支援などを行なったことで、生徒が興味や見通しを持って学習に取り組むことができた。 ○普段関わりの少ない他学年の教員や異なる経験を持つ教員の意見を聞くことで、自分にはない視点や多面的な見方を知り、自身の指導や業務を見直す機会となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●適切な実態把握や学習評価ができていのかどうか自信を持てなかったり、学年や学習グループで授業の振り返りを十分に行えず次の授業に生かし切れなかったりした。 ●生徒がICTを活用することについて、悩みや勉強不足を感じている教師もいる。 ●ICTを活用することに固執せず、効果的な学習をするための支援について継続して考えていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話」とおして学び合い授業づくりや生徒指導に生かした学年・グループ 100% ・校内・校外研修の学びを授業づくりに生かした教員 100% 	<p>グループ研修や学年会、グループ会、作業班会などにおいて、複数の教員で児童生徒の学びの視点で対話しながら授業づくりをすることができた。98.9%</p> <p>学習グループ研修での対話、コンサルテーション、はごろも「夢」講演会、定期訪問、各校外研修、授業の中での気づきをその後の授業づくりに生かすことができた。 100%</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒がICTを活用して自ら学習に取り組むことができたと考える教員 100% 	<p>教師の支援を受け、児童生徒がICTを活用して学習に取り組むことができた。 86%</p>	
<p>地域で生きていくための力やその基盤を培うキャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が授業・行事等で役割をもって強みを発揮できる取組の場を設定できた学年、グループ 100% 	<p>児童生徒が授業・行事等で役割をもって強みを発揮できる取組の場を設定することができた。 98.1%</p>	<p>A</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年・グループで、児童の好きや得意、挑戦したい気持ちを生かした役割を、児童の実態に応じて設定することができた。 ○学部全体として、児童の好き、得意を意識した授業づくりが定着してきた。 ○けやき祭月間は、他学部の様子を知るよい機会となった。 ○学部を越えた交流が、教員の指導力の幅を広げ、教育の連続性を意識するきっかけとなった。 ○生徒の実態や興味関心を基に活動や役割を設定したり、人のために活動する内容を設定にしたりすることで、仲間や教師から賞賛を受け、生徒が充実間や達成感を感じて意欲的に取り組む姿が増えた。 ○行事や運営を生徒に委ねることで、責任感や自信の向上が見られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学部間交流以外で他学部の様子を日常的に知れる工夫を学校全体でしていかるとよい。 ●実施段階だけでなく、企画の段階から生徒が意見を出し、自分たちで作り上げる「仕掛け」をさらに増やす必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・他学部の教育活動を知ることができた教員 100% (参加者自身の体験、参加者の報告から) 	<p>学部間交流をしたり、学部間交流をした教員の報告を聞いたりして、他学部の教育活動を知り、自分の学部の教育へ生かすことができた。 93%</p>		

ウ 連 携 ・ 協 働	地域等と目標を共有し地域資源を活用した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会からの助言、支援を共通理解している教職員 100% 	学校運営協議会からの助言、支援を共通理解することができた。 96.2%	A	【成果】 ○議事録を掲示板に掲載し、要点に色を付けることで全体に共有することができた。 ○地域住民や専門家からの客観的な意見が、具体的な環境整備や教員の意識向上に繋がっている。 ○各学年で年間をとおして計画的に地域ボランティアの活用をすることができた。 ○外部サポーターの方々と活動する機会を設けたことで、教師以外の方に褒められ自信を持って活動に取り組んだり、自分なりの方法でコミュニケーションを図ったりする姿がみられた。 ○地域の「人・モノ・産業」を授業に取り入れることで、教員だけでは提供できない深い学びが実現している。 ○事前・事後の指導を児童の実態に合わせて行うことで、交流籍交流に主体的に参加する姿が見られた。 ○美術作品制作や部活動での交流を中心に、生徒が主体的に関わる場面が多く見られた。 【課題】 ●例年どおりではなく、ニーズに応じた地域資源の活用の工夫をしていきたい。 ●外部サポーターとの目的や役割の共通理解が難しいと感じる教員もいた。 ●新しく連携した先を大切にしつつ、今後さらに地域のネットワークを広げ、多様な体験の場を確保していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域等の「人・もの・こと」とつながる取組を実現した学部 100% 	地域ボランティア、多様な人材等を活用することで、地域の「人・もの・こと」とつながる教育活動を実践することができた。99.1% 学部として、地域資源を生かした授業を行った。 96.5% 児童生徒と一緒にあきまつりに参加したり、奉仕活動や講演会等に参加する保護者に声を掛けたりすることができた。 98.8%		
		<ul style="list-style-type: none"> 双方の成長を促した交流活動ができたと考える教員、保護者、交流先各校 100% 	交流（学校間交流、交流籍交流）の目的や各学部の取り組みを意識し促すことで、双方が成長できる交流ができた。 95.9%		
地域へ貢献できる活動の設定と児童生徒の魅力の効果的な発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域から肯定的に評価される活動が設定できた学部 100% 	地域から肯定的に評価される活動が設定できた。 96.2%	A	【成果】 ○日常的に教師が手本となることで、あいさつ運動以外でも自分から挨拶をする姿を引き出すことができた。 ○販売会に取り組む姿や頑張って作って来た作業製品を外部の方に見ていただいたり、地域の防災や店舗について調べたりすることで、生徒たちが活動に意欲を持ったり地域への興味、関心を持ったりすることができた。 ○販売会や学習発表会において、生徒が呼び込みや接客、製品説明を積極的に行い、地域の方々に自分たちの活動や製品の良さを直接伝えることができた。 ○学年だより、ホームページ、Instagramで各学年が継続的に児童の活動の様子を発信することができた。 ○生徒一人一人の良さに合わせた内容と環境を設定したことで、生徒の日頃の学習の様子や良い表情を発信することができた。 ○生徒の学びや頑張りが伝わるよう、写真の選定を厳選し、コメントの内容を工夫することで、活動内容を分かりやすく整理して発信することができた。	
	<ul style="list-style-type: none"> 発信相手（保護者、地域の方）を意識し、魅力ポイントを明確にした内容を発信することができた学年、グループ 100% 	学校だよりや学校展で、本校の良さや子どもの魅力を発信できた。 98% 授業の様子や行事の告知等を明確な内容で、タイムリーに発信することができた。 97.3%			

様式第3号

					<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホームページとInstagramで内容が重複することがあるのですみ分けができるとうい。 ●肖像権保護の観点から使用できる写真に制約がある中で、いかに活動の臨場感を損なわずに伝えるか、撮影方法(構図やアングル)のさらなる工夫が必要。
エ チ ーム ・ 信 頼	働きやすい 職場環境の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・対話をとおして相互理解や安心感が得られた教員 100% ・所属部署内/所属部署間でお互いを認め合い、助け合いができた教職員 100% 	<p>対話をとおして相互理解や安心感を得ることができた。 94%</p> <p>校内の安全に関わることに、文章組織を超えて協力して取り組むことができた。 100%</p> <p>ととのうタイムに教職員同士で関りを持ちながら、物理的な環境を整えたり、コミュニケーションを取ったりすることができた。 96.3%</p>	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級、学年、グループなど、様々な集団で対話を重ね、互いの考えを共有しながら業務に取り組むことができた。 ○困ったことがあったときに、気軽に相談できる関係性を日常から築くことができた。 ○学部アドバイザーに限らず、知識や経験のある教員に相談して得た情報や助言を授業作りや生徒指導に活かすことができた。 ○定期的に人権チェックや人権研修会があることで、日頃の指導を見直すことができた。学部として児童をさん付けで呼ぶことが定着してきている。 ○少人数での対話を通じて、「気持ちになった」「お互いを助けようとする雰囲気」ができた」との声があった。 ○コンプライアンス研修や人権研修を通して自分自身の言動や行動を見直すことはできた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員間で互いの言動や行動を注意し合うことは難しかった。 ●行事前や業務が重なる時期は依然として話し合う時間が不足しがちである。 ●特定の担当教科や曜日、突発的な事態によって、時間確保が困難になるケースがある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事0 	<p>情報機器の不具合等があった場合、速やかに報告したり、正しい方法で情報機器を扱ったりすることができた。 99%</p>		
	児童生徒と 触れ合う時間や授業研究の時間の 確保	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムマネジメントができた教職員 100% ・勤務時間内に授業づくりや事務処理の時間が確保できた教員 100% 	<p>課会やチャット等で、情報共有や連絡相談をし、協力して業務を進めることができた。 100%</p> <p>勤務時間内に授業づくりや事務処理の時間が確保できた。 76.1%</p>	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○掲示板を活用し、やることをリスト化することで、自分の業務の優先順位を考え、計画的に働くことができた。 ○学年やグループ内で事務研を調整して取ったり、仕事が立て込んでいる教員と交代したりするなど協力して取り組むことができた。 ○資料の準備を早めに行なうように心掛けたことで、事前に資料に目を通す時間を確保することができた。 ○新日課への移行が、事務処理や授業準備の時間を生み出す推進力となった。 ○「終了時刻の明示」という具体的なアクションが、会議の効率化に大きく寄与した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●優先順位を考えて働くことはできたが、業務量が多くて定時を越えることが多かった。 ●生徒や教員の状況により、業務を計画的に進めるには難しいことがあった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・設定時間内に終了した会議 100% 	<p>設定時間内に会議を終了することができた。 88.4%</p>		